



日本共産党 北区議会議員

のの山けん区政レポート

https://ken-nonoyama.com/ mail@ken-nonoyama.com

No.742 2025.1.22

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

“ずさんな資金管理”どころか

「中抜き」組織的に

都議会自民党不記載問題で日本共産党東京都議団が記者会見

記者会見を行う、(右から)池川友一、和泉なおみ、白石たみお、原田あきらの各都議会議員



日本共産党東京都議団は22日、都庁内で、都議会自民党の政治資金パーティー券収入不記載問題について記者会見を行いました(裏面に関連記事)。

記者会見の
動画はこちら→



不記載問題をめぐっては17日、東京地検特捜部が政治資金規制法違反(虚偽記載)の罪で、収支報告書を作成した会計担当者を略式起訴しています。

独自に入手した資料を公開

会見では、都議団が独自に入手した資料を公開。これは都議会自民党の総会で幹事長が2019年12月のパーティーにおけるパ

ティー券の取り扱いについて説明している資料です(左図)。これによれば、都議1人あたり200万円分のパーティー券(1枚2万円、100枚)を配付し、100万円分を納めること、100枚を超える分は1万円ずつ会派と都議で折半することなど詳細な手法で裏金を作っており、都議団は、「ずさんな資金管理」ではないと厳しく指摘しました。(のの山けん)

“飛躍のつどい”について

(10月21日総会幹事長説明)

日時 令和元年12月23日(月) 開会 6時30分
会場 京王プラザホテル 本館5階 コンコルドホールルーム
主催 東京都議会自由民主党
参加人数: 招待者を含め、約3,000人を予定

(パーティー券について)

〇本日配布のパーティー券

1 現職議員

各議員1人100枚と領収書(白紙、額面20,000円)を白い手さげに入れてあります。
そのうち50枚分(100万円)を11月29日(金)までに矢島さん
に持参してください。
100枚以上必要なのは、100枚を削いたのち、追加必要枚数を請求
してください。追加分については、会費の半分を納入していただきます。

2 各種団体

団体ごとの専用手袋に、招待チケット1枚、会費チケット(団体ご
との枚数)、訪問団体一覧、訪問報告書を入れてあります。
各議員、複数団体(訪問団体名簿参照)を訪問していただきますが、
10月31日までに訪問してください。
訪問後、訪問報告書は政調会で提出してください。

〇今後配布するパーティー券

1 国会議員

都連所属衆参議員46名、1人30枚配布。担当議員で訪問していただきます。チケットは、11月になって配布いたします。

2 前議員

都高顧問、常任顧問、政策参与、参与、新人候補に招待チケット1枚
と会費チケット10枚配布し、自由に使ってください。
追加の届書は、枚数分の会費の半分を納入していただきます。

日本共産党都議団が独自に入手した資料

都議会自民党による裏金問題の全容解明、再発防止へ

企業・団体献金禁止を

日本共産党都議団・和泉幹事長の談話(要旨)

都議会自民党の裏金問題について

2025年1月18日
日本共産党都議団 幹事長 和泉なおみ

談話



1月17日、東京地検特捜部は、都議会自民党の裏金問題で会計担当職員を起訴しました。しかし、都議については金額が数百万円にとどまるといふ理由で、起訴の覚悟が広がらないという指摘に、世論の批判が広がる事は必至です。

都議会自民党は同日、記者会見を開催し、政治団体としての都議会自民党を解散すると表明しましたが、都議会会派としての都議会自民党は存続します。「不記載」があった都議の名前や人数、個別の不記載額は明らかにしていません。また、いつから裏金の運用が始まったのかは調査できなかったと語りましたが、長年の慣習となっていたことから、自民党の組織的問題であることが改めて浮き彫りになりました。

たとえ都議の起訴が見送られても、政治団体としての道徳性、倫理的責任がなくなるとはなりません。政治への信頼を失墜させ、有権者の負担を減らすことは、厳しくその責任が問われます。収支報告書の記載修正をもって、事象の隠蔽化を図ろうとする事は、とうてい許されません。

また、今組織になっているのは、あくまで物議にかられない19年と22年2名の都議の交代の交代金でありますが、それ以前については、一切明らかにされていません。

都議会自民党の中では、100枚のパーティー券が配られたうち50枚だけを納めればよいこととされ、残りは議員が受け取ってという裏金のシステムが当たり前のように常態化していた事実は、自民党議員の裏金の実態以上に深刻です。

都議会自民党は、陣地にかかっている時期も含め、誰が、いつから、どれくらい裏金に回っていたのか、裏金を得たのか、自ら徹底した調査を行い、明らかにする必要があります。

日本共産党都議団は、都議会自民党による裏金問題の全容解明に取り組みます。

都議の停職が継続、「売れた30年」といわれるように、都議成長が止まった際、資金が上がりない間に大金を握り、自民党候補による財界・大金持ちの政治があります。日本共産党は、企業・団体献金・パーティー券購入の全面禁止を一貫して求め続けてきました。

今こそ、政治資金パーティー券を含め企業団体献金を禁止して、政治家の裏金を断ち切り、都民の負担を減らすために、引き続き全力をあげます。

以上

党都議団・和泉幹事長の談話

1月17日、東京地検特捜部は、都議会自民党の裏金問題で会計担当職員を略式起訴したが、都議については金額が数百万円にとどまる事から起訴を見送った。都議会自民党は同日、記者会見を開催、政治団体としての都議会自民党を解散すると表明したが、「不記載」があった都議の名前や人数、個別の不記載額は明らかにしていない。また、いつから裏金の運用が始まったのかは確認できなかつたとしたが、長年の慣習となっていたことから、自民党の組織的問題であることが改めて浮き彫りになった。

たとえ都議の起訴が見送られても、政治家としての道徳的、倫理的責任がなくなつたわけではなく、政治への信頼を失墜させ、有権者の負担を裏切ったことは、厳しく責任が問われる。都議会自民党の中で、100枚のパーティー券のうち50枚分だけ納めればよいという裏金のシステムが当り前のように常態化していた事態は、自民党国会議員の裏金の実態以上に深刻である。日本共産党都議団は、都議会自民党による裏金問題の全容解明に取り組みとともに、企業団体献金を禁止して政治とカネの癒着を断ち切り、都民の負担にこたえる都政実現のために、引き続き全力をあげる。

幹事長談話の全文はこちらから↓



災害から地域住民の命を守る

赤羽消防団が2025年始式ひらく

19日、赤羽会館で赤羽消防団始式が開かれました。常日頃から地震などの災害に備え、消防署と連携して地域住民の命と財産を守るために活動している消防団。模範的な団員の表彰とともに、21名を数える新入団員も紹介されました。(のの山けん)

